

# 第14回姉妹港会議レポート

大阪、上海、ルアーブル、サンフランシスコ、メルボルンの5つの港が参加し、隔年、開催されている姉妹港会議が、今年は5月5日・6日の2日間メルボルンにて開催された。

今回はルアーブル港が欠席し、4港の会議となったが、大阪港からは大阪市港湾局長と振興担当課長の2名が、前回(2007年4月にサンフランシスコ港にて開催)に引き続き参加し、振興担当課長のみ本会議終了後2日間(5月7日・8日)実施されたメルボルン港との職員交流に参加した。

今回で14回目を迎える姉妹港会議であるが、メルボルン港での開催は今回が初めてであり、メルボルン港の概要、及び参加港における昨年後半からの世界経済危機の影響を中心に報告する。

## オーストラリア経済を支えるメルボルン港

ちょうど近畿圏の人口規模に匹敵する2,100万人の人口を抱えるオーストラリアは6州と2地域で構成され、メルボルン港はヴィクトリア州の州都メルボルンに位置する。ヴィクトリア州は本土で最も面積の小さい州であるが、2番目に人口密度の高い州(人口530万人)である。全豪GDPの25%(1,800億米ドル)を産出し、自動車、製造業、食品加工、農業が主な産業となっている。同州にはトヨタ自動車工場が立地しており、自動車はメルボルン港の主要取扱品目である。

メルボルン市圏の人口は約4百万人(メルボルン市単体の人口は約8万人)で、メルボルン港はメルボルン市を含む4つの市町村に隣接している。メルボルン港を所管するメルボルン港公社(Port of Melbourne Corporation)は、ヴィクトリア州が100%出資し、2003年7月1日に設立された。総職員数は約230名で、510ha超の港湾エリアを所管(公社はメルボルン市最大の土地所有者でもある)、21kmに及ぶ水際線、および10万haを超える港湾水域を管理している。総バース数は34(コンテナ、液体バルク、バラ積みバルク、自動車)あり総延長は7km、主なテナント数は35社となっている。07-08年度の収入は1億7200万豪ドル(≒約1億2100万米ドル≒約120億円)で、税引き後の利益は4300万豪ドル。収入は、岸壁使用料(係留料)[全収入の65%]、航路通行料(トンベース)[全収入の12%]、土地賃貸料[全収入の19%]の3分野。岸壁使用料収入の82%がコンテナ、次いで自動車4%となっており、コンテナ戦略が公社にとって経営上最重要課題である。公社は、州政府に対し、収入の30%を税金として納め、唯一の株主として配当も支払っている。

メルボルン港のコンテナ貨物取扱量は年間225万TEU(全豪最大で全国シェアは36%、2位はシドニー港で28%)、入港船舶数は年間約3600隻、174カ国と交易があり貿易額は600億米ドルとなっている。輸入が6割、輸出が4割を占め、実入りコンテナが約8割、空

コンテナが約2割を占めている。空コンテナ置場は個々のオペレーターが所有しているが、近年、地代高騰に伴い高度利用を迫られた結果、96年には20あったコンテナパークが現在は半減している、とのことである。

内貿貨物は全体の28%を占め、その大部分はタスマニアとの取引によるもの。外貿貨物のうち、輸入品目は家具・電気製品・電子機器・衣類・スポーツ用品などの小売商品が31%で、次いで自動車18%、石油12%となっている。輸出品目は穀類などの農産物が34%、次いで完成車(トヨタ自動車)が15%、工業製品14%、パルプ・紙製品11%となっている。

国際コンテナターミナルであるスワンソン・ドックは、ポート・フィリップ湾から幅員約100mほどのヤラ川を2~3km遡った地点に位置する。コンテナ船はヤラ川を一方通行で航行しなければならない。会議初日(5月5日)夕方に、スワンソン・ドック竣工40周年記念セレモニーが、このドックを臨めるヤラ川対岸の市民啓発センターにおいて、大阪港・メルボルン港姉妹港提携35周年記念セレモニーに引き続き開催された。このドックは、水際線約750mの岸壁を東西に設けガントリークレーンがそれぞれ8基設置されていた。これだけのスペース・施設・条件で、大阪港での全取扱量を上回るコンテナ貨物を処理していることになり、いかに効率的に開発・設備投資が行われてきたかがうかがえる。



スワンソン・ドックとヤラ川

客船に関しては、08-09シーズンの寄港数は56隻(乗船客数14万人)で、8隻がターンアラウンド(終点・出発)。タスマニア島と結ぶフェリーが毎日就航している。メルボルン市都心部から5キロ離れたポート・フィリップ湾に面した客船埠頭は栈橋形式で砂浜(ビーチ)に隣接している。内航2バース(延長220m・95m)外航2バース(延長223m・400m)の計4バースで水深は内航1バースが7.4mで他の3バースは10.3m。メルボルン港公社の客船担当者は2名のみで、メルボルン客船委員会の事務局を担っている。この委員会は、公社以外にヴィクトリア州(観光担当)、メルボルン市、ヴィクトリア・タクシー協会、ヤラ・トラム(鉄道)、ポートサービス関係者、客船代理店がメンバーとなっており、他の関係官公庁やボランティアと連携して客船受入れを行っている。

メルボルン港公社にとって近年最も重要かつ困難を極めたプロジェクトが、大規模な航路浚渫であり、計画決定から完了(予定)までに8年を要した。航路となっているポート・フィリップ湾は約2000km<sup>2</sup>の水域、海岸線264km、沿岸に約300万人が居住しており、ダイビングやボートなどのレクリエーションが盛んで、ペンギンやイルカ・アザラシなどが生息する生態系豊かな湾である。メルボルン港に入港する船舶は、ポート・フィリップ湾入口から東に航行した後北上してヤラ川河口に至るが、約90kmに及ぶこの全航路上において、水深14mを維持しなければ、今後、想定されている総コンテナ船の60%が入港に支障を来すと予測されたため、2001年に着手された。総事業予算額は、環境保護、湾監視プログラム、汚染対策等を含め約9億7千万豪ドル(≒約676億円)。1湾の入口、2湾南部航路、3メルボルン港航路・ウイリアムズタウン航路、ヤラ川の4箇所での浚渫が必要とされ、09年5月6日時点で1,742万m<sup>2</sup>の土砂が除去された(約76%完了)。



ポート・フィリップ湾



浚渫エリア

2004年に発表された環境影響報告書には、独立委員会から137の勧告が提出され、本浚渫に先立って2005年に試験浚渫を開始。しかしながら、地域住民や環境保護団体・マリンスポーツ愛好家などから猛烈的な反対運動を展開され法廷闘争にも発展した。最高の科学技術を駆使して最高レベルの環境基準を満たすように、自然環境の保護に重点を置いたプロジェクトを再構築し、これらの取組みをウェブサイトやホットラインで広報するとともに、浚渫を必要とする関係者にも働きかけた。試験浚渫の結果をふまえ、2年の年月と8500万米ドル(≒84億円)の経費をかけて、1万5千ペ

ージに及ぶデータと研究成果、40の新技術の検討を含む報告書を2007年3月に提出、州政府および連邦政府の承認を得ることができた。これを受けて、2008年2月8日から正式に本浚渫を開始、湾内の浚渫は今年8月末に完了し、プロジェクト全体も2009年末に完了する予定である。ちなみに、この間、プロジェクト広報宣伝のために展開したTV・ラジオキャンペーン経費は300万米ドル(≒3億円弱)にも及ぶ。

このプロジェクトの広報活動など、近年、メルボルン港公社では、隣接する4市町村の住民を対象とした地域社会貢献活動や啓発活動にも力を入れている。ヤラ川沿や臨海部では、住宅開発が進んでおり、居住エリアとの緩衝帯となる土地を取得して港湾エリアとの隣接を回避する一方、既存住民には、啓発センターでの説明会・見学会の実施や、地域活動の助成など、積極的に地域に入り込んでいくことにより港湾機能の重要性や役割について正しく理解してもらう努力を積み重ねており、これは大阪港にとっても共通の課題であり、たいへん参考になった。



## 世界経済危機の影響と今後の課題

メルボルン港においては、昨年8月・9月ともにコンテナ取扱量は、月間20万TEUを超え、10月には21万TEUという最高記録を達成した。17年間、年率7.8%の伸びを示していた取扱量であるが昨年12月から今年3月にかけてスローダウンした。昨年12月実績は、対前年同月比で、コンテナ取扱量が5.2%減、自動車は28.7%減、同様に今年1月実績は、コンテナが12.8%減、自動車が33.8%減、今年2月実績で、コンテナが16%減、自動車が35.9%減、今年3月実績で、コンテナが7.6%減、自動車が38.7%減となっている。コンテナ取扱量は底を打った気配があるが、自動車については厳しい状況が続いているとのことである。年率で見ると、2008年7月1日から今年3月までの状況では、コンテナが1.5%の減少、自動車が15.9%の減少となっている。

現在のメルボルン港の課題であるが、航路浚渫事業のほか、3~4年以内に新たなコンテナターミナルの開発着手、自動車および在来ターミナルの再開発、平日混雑しているトラック輸送の改善やオフドック拠点開発などとなっている。液体バルクを除き、メルボルン港で取扱われる貨物の80%がトラックで輸送されており、輸入貨物の90%、輸出貨物の60%が40km圏内で輸送

されている。トラック輸送動線はメルボルン都心部と完全に分離されており、街中でトレーラーやトラックを目にすることはないが、公社では、トラック輸送の負荷を軽減するため動線の改善や鉄道輸送の活用促進を図る計画・取組みを政府にも働きかけて進めている。トラック輸送に関しては、週末料金を安くすることにより平日からシフトさせることなどを検討しているとのことであった。

サンフランシスコ港(コンテナ貨物と液体バルクは取扱っていない)の報告によると、北米西海岸の2009年3月のコンテナ取扱量は大幅に減少し、対前年同月比で、ロスアンゼルス港が17.43%減、ロングビーチ港が29.5%減、タコマ港が14.7%減、シアトル港が23.6%減、オークランド港が15.7%減となった。住宅バブルがはじけて金融危機に陥ったことによる低成長や高失業率による消費の冷え込みのほか、特にカリフォルニア州をはじめ米国西海岸の港を利用する際の環境規制によるコスト高(浚渫規制や排水処分制限、バラスト水の交換、船舶・トラック・荷役器械の排気ガス規制、低排ガスエンジン搭載コンテナトレーラーの使用、陸電など)、さらにはプリンスルパート港(カナダ)やメキシコなど他の港へのシフトが主な要因となっている。

サンフランシスコ港で取扱っているバラ積み貨物も2008年は対前年比で、印刷紙・鉄鋼・木材などが50%減、土砂やコンクリート材が20%の減少となった。

サンフランシスコ港は、7.5マイルの海岸沿の土地(棧橋・ターミナルなどの港湾施設、商業不動産、レクリエーション・オープンスペースなど)の開発・管理・賃貸を行っているが、カリフォルニア北部における経済波及効果は、直接・間接・誘発合わせて、収入では20億米ドル(≒1983億円)、税収では2590万米ドル(≒25.7億円)、正規雇用では15,240人創出しているとのことである。客船では、フェリーが年間600万人を輸送しており、半数が通勤客、半数が観光客となっている。クルーズ客船は、年間約60隻(乗客20万7千人)が寄港し、1/3が母港もしくは乗船客入換えとなっている。現在、レクリエーション機能を充実した新たな複合客船ターミナル(ピア27)整備計画が進められている。

上海港では、より内陸部(河川および道路)とのネットワークの構築・一体的な交通輸送体制をめざし上海市港湾管理局が、交通及び他の部門と合併して、上海市交通運輸港湾管理局へと改組された。2008年の上海エリアのGDPは対前年比で+11.4%となったものの伸び率は3%減少、輸出入は+14%であったが伸び率は10.4%の減少となった。コンテナ貨物については、2800万TEUと対前年で7%伸びたが、前年は20%の伸びを記録しており伸び率では13%減となり、空コンテナが激増した。石炭や原油なども昨年秋以降落ち込んでいる。2009年の第1四半期も振るわなかったが、3月以降は、刺激策により消費が上向いたこともあり落ち

着きつつある。これらの危機対策として、空コンテナ発送センターの構築や情報システムの開発、科学技術の導入によるセキュリティシステムの構築など、様々な機能強化を図るとともに、河川の浚渫や旧港の機能転換により河川港および他の沿岸港との連携を強化するとのことである。

客船誘致にも力を入れており、2007年度から2億1600万米ドルを費やして1万3千トンから1万7千トンの客船が寄港できる4バースのターミナルを整備し、2007年の47隻(乗客10万人)に対し、2008年には60隻(乗客13万人)の客船が寄港した。

## 効率的な港湾運営に向けて

厳しい経済状況のなかで発表された今回のプレゼンテーションを通じて、メルボルン港・サンフランシスコ港・上海港それぞれの特長や強みを活かした、今後の取組み方針をより具体的に知ることができた。

メルボルン港では、地域経済に恩恵をもたらす港湾運営を展開するため、公社が、非常に戦略的に港湾機能強化に取組んでおり、船舶から鉄道・トラック輸送に至るまでを一貫した港湾物流としてコミットメントしている姿勢は港湾管理者として見習うべき点が多かった。ちなみに広報ツールの基本デザインも船舶・鉄道・コンテナトレーラーが3本の柱として表現されている。

次回、2年後の第15回姉妹港会議は、10年ぶりに大阪港での開催となる。サンフランシスコ、メルボルンと2回続けて姉妹港会議に出席することができ、この2港の代表者の方々とはすっかり顔馴染みになることができた。この貴重なつながりを大切に、相互発展につなげていくことができるように、大阪港での開催準備を進めて行きたいと思う。

最後に、今回の出張に際し、たいへんお世話になったメルボルン港公社のみなさん、および出張準備にあたってくれた港湾局スタッフに心からお礼を申しあげる。

大阪市港湾局 経営管理部 振興担当課長 佐古 里子



市民啓発センターでの  
姉妹港35周年式典  
(遠景はスワンソン・ドック)



会場風景  
(スクリーン左のパネルには  
船舶、列車、コンテナトレー  
ラーが表現されている)